

令和6年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和6年12月17日	CHAmmit参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、短期大学部（船橋校舎）教職員教育改善委員会委員、事務職員の計10名が、学部提案書について50分程度、実現に向けて意見交換を行い、短期大学部（船橋校舎）教職員教育改善委員会で検討しました。

2 短期大学部（船橋校舎）から学生へのメッセージ

第12回目となる令和6年度においては、昨年度同様、完全対面方式で実施され、短期大学部（船橋校舎）からは2学科の学生と教職員の皆様にご参加いただき、短期大学部（船橋校舎）で学ぶ意義や理想の学部にするための提案をいただきました。ご参加いただきました学生と教職員の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

今年度は、参加いただいた学生の皆様からは、15件の「学部に望む授業」の提案をいただきました。ご意見は確かに受け止めた上で、今後の短期大学部（船橋校舎）授業改善に活かしたいと存じます。また、協議会の時間の都合上、全ての提案について、協議することはかなわず、9件について、協議会にて協議いたしました。その結果、「対応済」が7件、「対応中」が2件となりました。「対応済」は、短期大学部（船橋校舎）ではすでに取り組んでいることや対応していることが多く、学生の皆さんへの周知方法などの改善を図って参ります。また、「対応中」は、カリキュラム・施設・設備の関係上、すぐには解決できないものもありますが、関係部署が連携し、より良い教育環境づくりに努めます。

今後も両学科及び理工学部併設校である特色を活かし、各学科での取り組みや実例などを共有し、教育の質や改善について検討を重ね、教育の質の向上と教育環境の充実に努めて参ります。

3 学部提案書の対応について

「学部に望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
学んだことを体験できる授業が欲しい	○			座学で学修した内容を実験科目として体験できる科目も設置しています。また、1年生で学修した内容は、2年生の学修した内容と理論的に結びつくように枠組みを構築しています。引き続き、学生が各科目つながりを実感できるように、丁寧に説明して参ります。
授業中に問題を解く時間を十分設けてほしい	○			授業時間は、90分の定められた時間で終わらせる必要があるため、全ての学生が問題を解き終わるまで待つことは難しいです。シラバスに事前・事後学修が記載されているため、十分な事前・事後学修を行えば、定められた時間内に問題を解き終わられるように科目担当教員は問題を作成しています。また、科目によっては、予習できるように事前に資料を公開している科目もあります。パワーアップセンターや補充教育科目などの基礎学力を向上するための制度もあるので、積極的に活用ください。
授業中に学生が考える時間を設けたり、グループディスカッションをし、発表する機会を作ってほしい		○		全学共通教育科目の「自主創造の基礎」では、授業中にグループワークの時間を設け、毎授業の最後には、振り返りの時間も設けています。また、第14回・第15回目の授業では、これまでの授業の成果として、発表する機会を設けています。 学科によっては、授業前に課題を課し、その成果を授業中に他学生と話し合う科目もあります。引き続き、学生主体の科目を増やしていけるよう、検討を続けていきます。
授業中の自習時間を減らしてほしい	○			基本的には、自習時間を設けている科目はありません。演習科目の一部などにおいて、学生が主体的に問題を解くことが目的の科目もありますが、自習ではありません。学生には、演習科目とはどのような科目なのかをしっかりと説明し、理解してもらえるように努めていきます。

テストの終わりに解説をしてほしい	○			理解度確認テストでは、原則として、科目担当教員がテスト後に解説等のフィードバックをすることになっています。ただし、すべての科目について、当該テスト内容について、解説するとは限らず、15週にかけて学んだ内容について、フィードバックすることもあります。個別の問題や分野について、わからない点がある場合は、科目担当教員にお問い合わせください。
買った教科書を使うような授業形態をとってほしい	○			購入した教科書は、必ずしも授業で使うとは限らず、事前学修や事後学修のみで使用することもあります。科目担当教員には、使用する教科書をシラバスに記載の上、その用途等を授業でも学生に説明するように周知しています。
学生がこなせる範囲で課題を出してほしい	○			各科目に学修到達目標があり、それに基づいて科目担当教員は、課題を出していますので、個々の学生に合わせた課題を課すことはできません。もし、課題の難易度が高く感じる場合には、基礎学力向上や個別指導等を目的としたパワーアップセンターの利用も可能です。また、補充教育科目等も積極的に活用ください。
レポートやテストの評価点を開示してほしい	○			現在、成績の評価点自体は学生に開示はしていませんが、レポートや小テストの採点などに関しては、Canvas等であらかじめ設定し、学生にも開示している科目も存在します。また、レポートを対面提出させて、フィードバックをし、場合によっては再提出を求めている科目もあります。引き続き、科目担当教員にはレポートやテストのフィードバックをするように周知いたします。
シラバスと実際の授業が合っていないため、シラバスの内容を見直してほしい		○		科目担当教員は、原則として、シラバス通り授業を実施しています。また、シラバスの内容に変更がある場合は、授業等で学生に周知するように指導しています。引き続きシラバスの内容と実際の授業の間に齟齬が生じないように、シラバスの内容の改善を検討していきます。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。